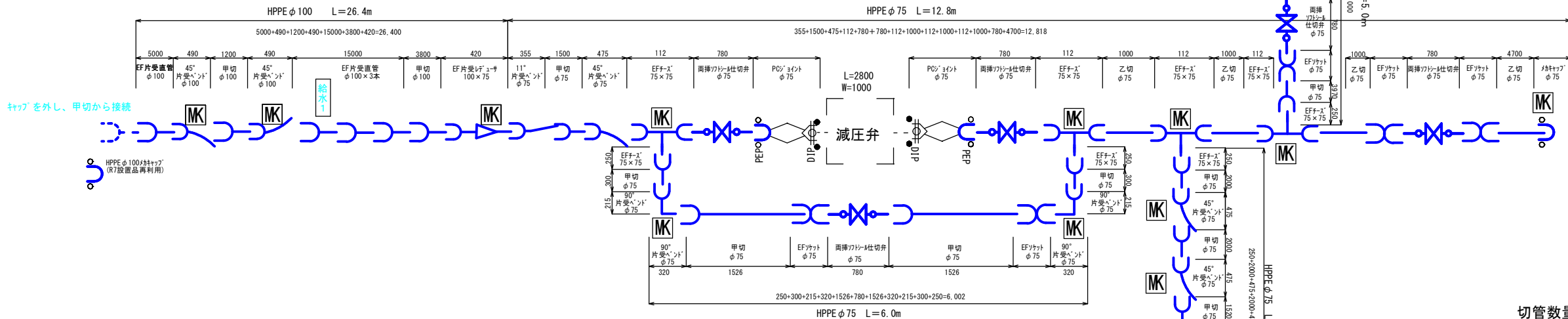


管割図

耐震型高性能ポリエチレン管

HPPEφ100 L=26.4m
HPPEφ75 L=31.3m

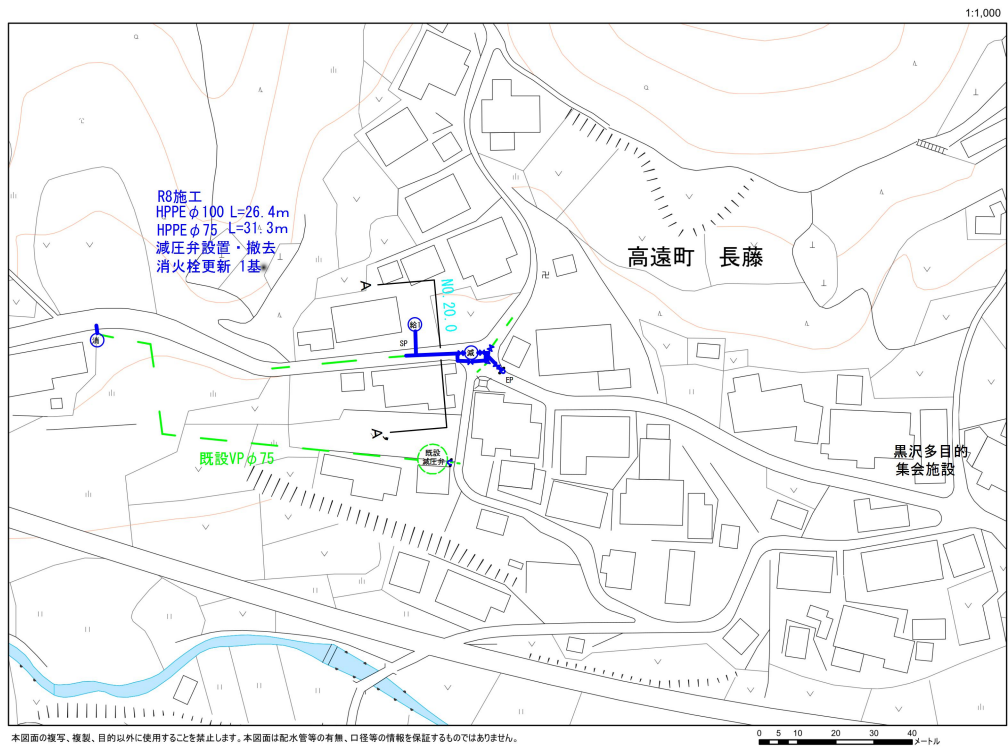


本管資材数量表	当初	変更	単位
HPPEφ100EF(直管+甲切)	6		本
HPPEφ75EF(甲切)	9		本
EFソケットφ75	6		個
EF片受ベント90°φ75	2		個
EF片受ベント45°φ100	2		個
EF片受ベント45°φ75	3		個
EF片受ベント11°1/4φ75	1		個
EF片受レギュサφ100×75	1		個
EFチーグφ75	4		個
PVジョイントφ75	1		個
PCジョイントφ75	2		個
マカキャップφ75	1		個
EFソケット仕切弁φ75(両挿)	6		個
仕切弁BOX(ショート)	3		個
仕切弁BOX(ロング)	3		個
識別マーカ	12		個

本管労務内訳表	当初	変更	単位
ポリエチレン管据付工φ100	26.4		m
ポリエチレン管据付工φ75	31.3		m
ポリエチレン管継手工 融着接合φ100	9		箇所
ポリエチレン管継手工 融着接合φ75	15		箇所
ポリエチレン管継手工 融着接合φ75	10		箇所
ポリエチレン管(マカ継手)布設工φ75	5		箇所
マカ継手継手工φ75(普通押輪)	2		箇所
マカ継手継手工φ75(特殊押輪)	2		箇所
ポリエチレン管切断工φ100	2		箇所
ポリエチレン管切断工φ75	13		箇所
硬質塩化ビニル管切断工φ75 撤去管	2		箇所
仕切弁設置工φ100以下	6		箇所
仕切弁BOX設置工	6		箇所
本管土工(シート含む)	57.7		m
試掘削工	2		箇所

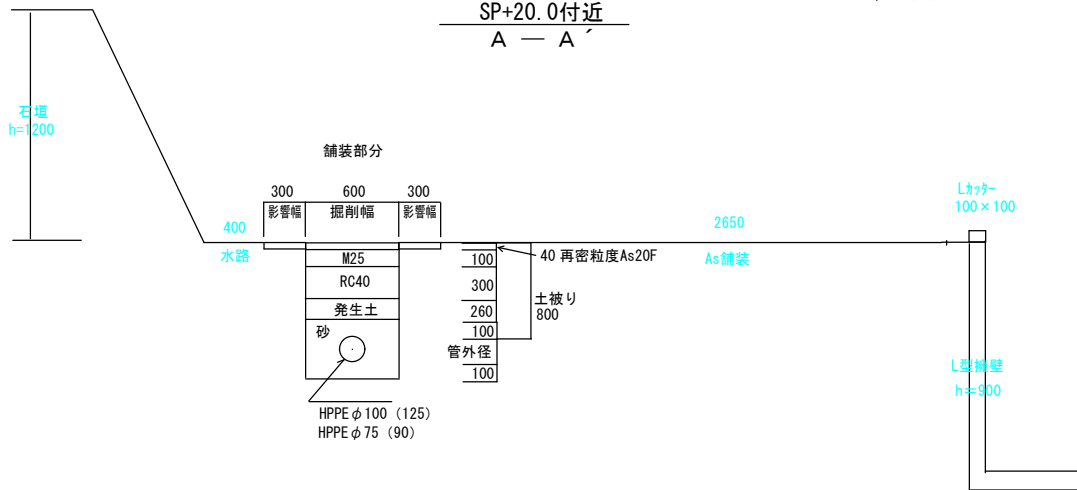
切管数量表 HPPEφ75		
	甲切	乙切
1	1500	1000
2	300	1000
3	1526	1000
4	1526	
5	300	4700
6	2000	
7	2000	
8	1520	
9	3970	

平面図

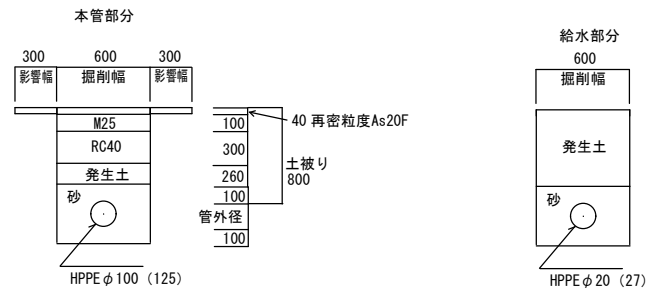


横断面

S=FREE

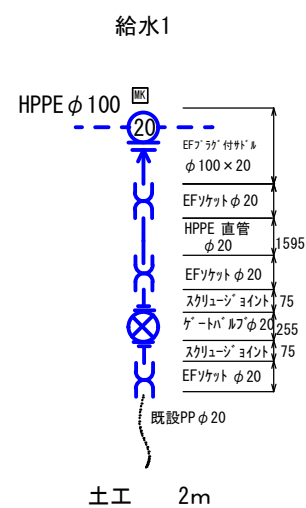


標準断面



令和8年度					
管割図			縮尺 フリー		
老朽管更新黒沢 配水管布設替工事					
課長	伊藤(靖)		係長	伊藤(勇)	
照査	木村	設計	酒井	製図	酒井
図面番号		1 葉中之		3	
伊那市役所 水道整備課					

給水図



給水材料表		当初	変更	単位
EFソケット付サドル	φ100×20	1		個
HPPE直管	φ20	1.6		m
EFソケット	φ20	3		個
ゲートバルブ	φ20	1		個
スクリージョイント	φ20	2		個
マーカ	φ20	1		個
(仕切弁BOXは市で提供)				

給水労務表		当初	変更	単位
分水栓建込工ホリエレン管	φ100×20	1		箇所
ホリエレン据付工	φ20	2		m
ホリエレン管継手工(融着両口)	φ20	3		箇所
ホリエレン管切断工	φ20	1		口
ホリエレン管切断工(撤去管)	φ20	1		口
小口径管ねじ込み接合	φ20	2		口
給水土工		2		m

本管土工

舗装工

表層
As (t=4cm) 60.8+12.0=72.8
=73㎡

舗装取壊し工

舗装切断
As (46.7+4.0+5.0) × 4=222.8
=223m

不陸整正
(t=3cm) (46.7+4.0+5.0) × 0.6=33.42
=33㎡

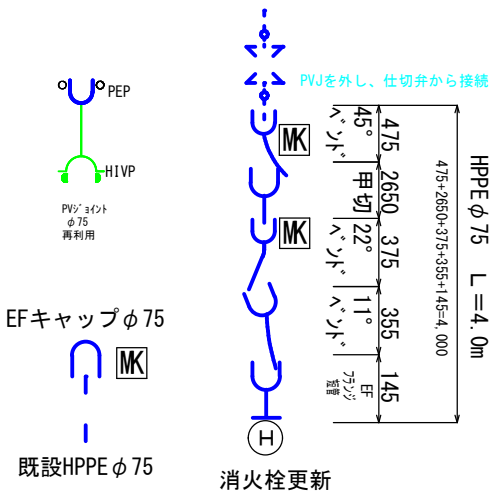
舗装版取壊し (表層と同じ)
As (t=4cm) 73㎡

運搬費
AS塊 72.8×0.04=2.912
=2.9m3

C0塊 0.1m3
汚泥 222.8m÷0.2m3

処分費
As 2.9m3×2.3=6.7 t
Co 0.1m3×2.35=0.2 t
汚泥 0.22m3×1.1=0.2 t

消火栓工事



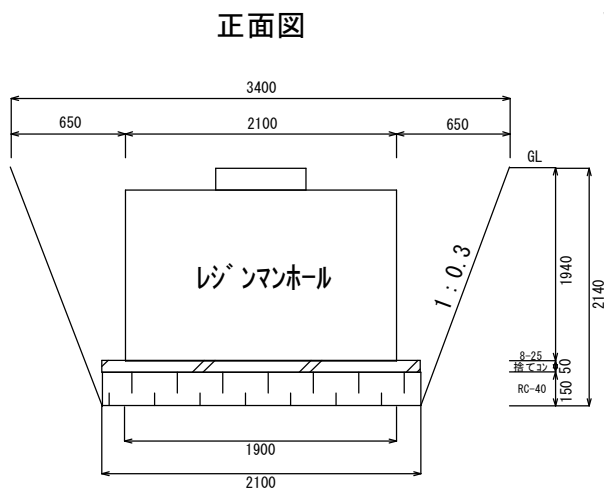
消火栓資材数量表		当初	変更	単位
HPPE φ75EF直管 (片受)		1		本
EF片受ベント 45° φ75		1		個
EF片受ベント 22° 1/2 φ75		1		個
EF片受ベント 11° 1/4 φ75		1		個
EFフランジ 短管 φ75		1		個
EFキャップ		1		個
フランジ 接合材 φ75 LSP型		1		組
地上式消火栓		1		基
識別マーカ		3		個

消火栓労務内訳表		当初	変更	単位
ホリエレン管据付工 φ75		4.0		m
ホリエレン管切断工 φ75 (据付管)		1		口
ホリエレン管切断工 φ75 (撤去管)		2		口
ホリエレン管継手工 融着接合 φ75		6		口
消火栓撤去工 機械施工 地上式 単口消火栓		1		口
消火栓設置工 機械施工 地上式 単口消火栓		1		口
構造物とりこわし工 (無筋Co) V=0.7*0.7*0.2		0.1		m3
消火栓土工 (シート工含む) (As 4cm)		4.0		m

減圧弁土工

掘削
{ (3.40×2.60) + (2.10×1.30) } / 2 × 2.14=12.38
=13㎡

埋戻し
{ (0.65+0.2) / 2 } × 1.94 × 2.8=2.3
=2.3㎡



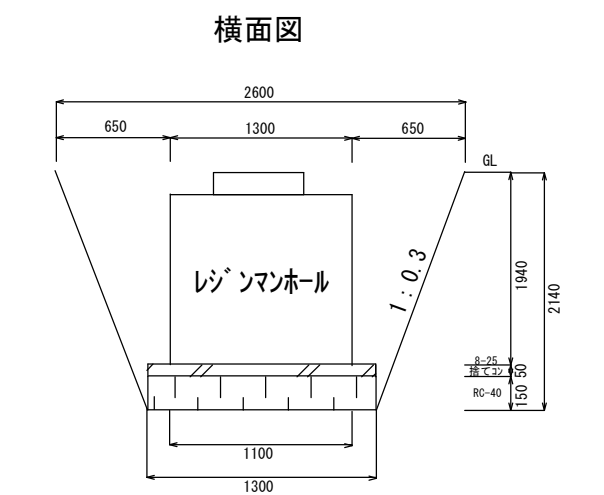
発生土処理
13- (2.3+4.8)=5.9
=5.9m³

床均し
2.10×1.30=2.73
=3m³

基礎碎石 (RC-40)
3×0.15=0.45
=0.5m³

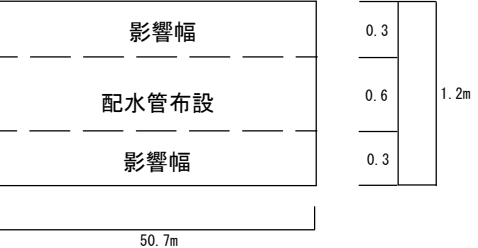
型枠 (一般型枠)
3m³

コンクリート (人力打設)
3×0.05=0.15
=0.2m³

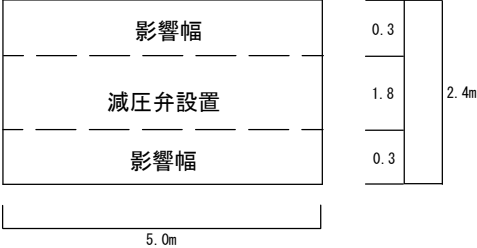


舗装展開図

本管部分
W1.2m×L (46.7+4.0) m 60.84÷60.8㎡
L46.7=総延長57.7- (減圧弁設置箇所5.0m+バリエレン延長6.0m)

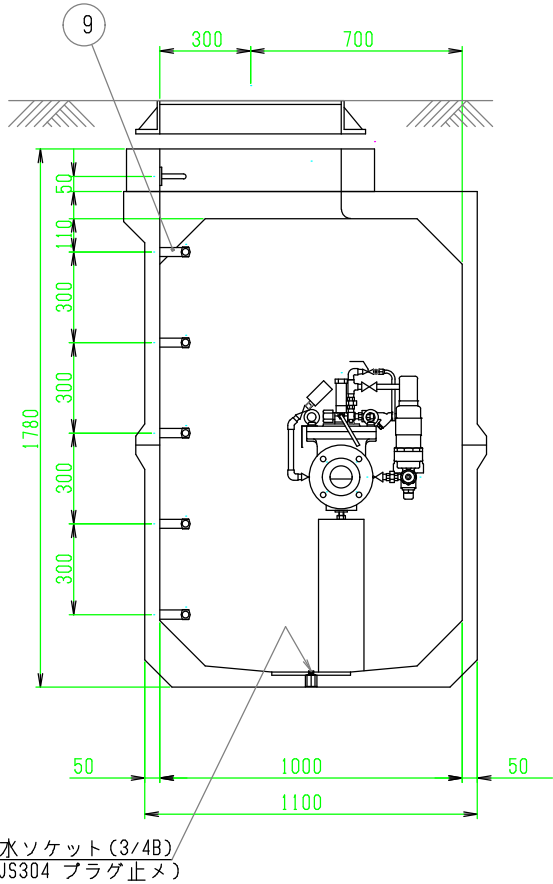
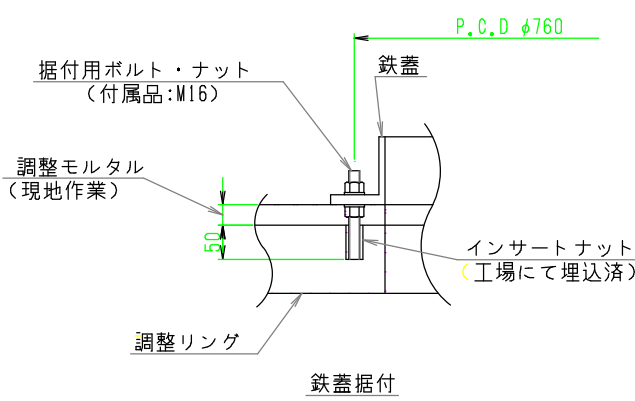
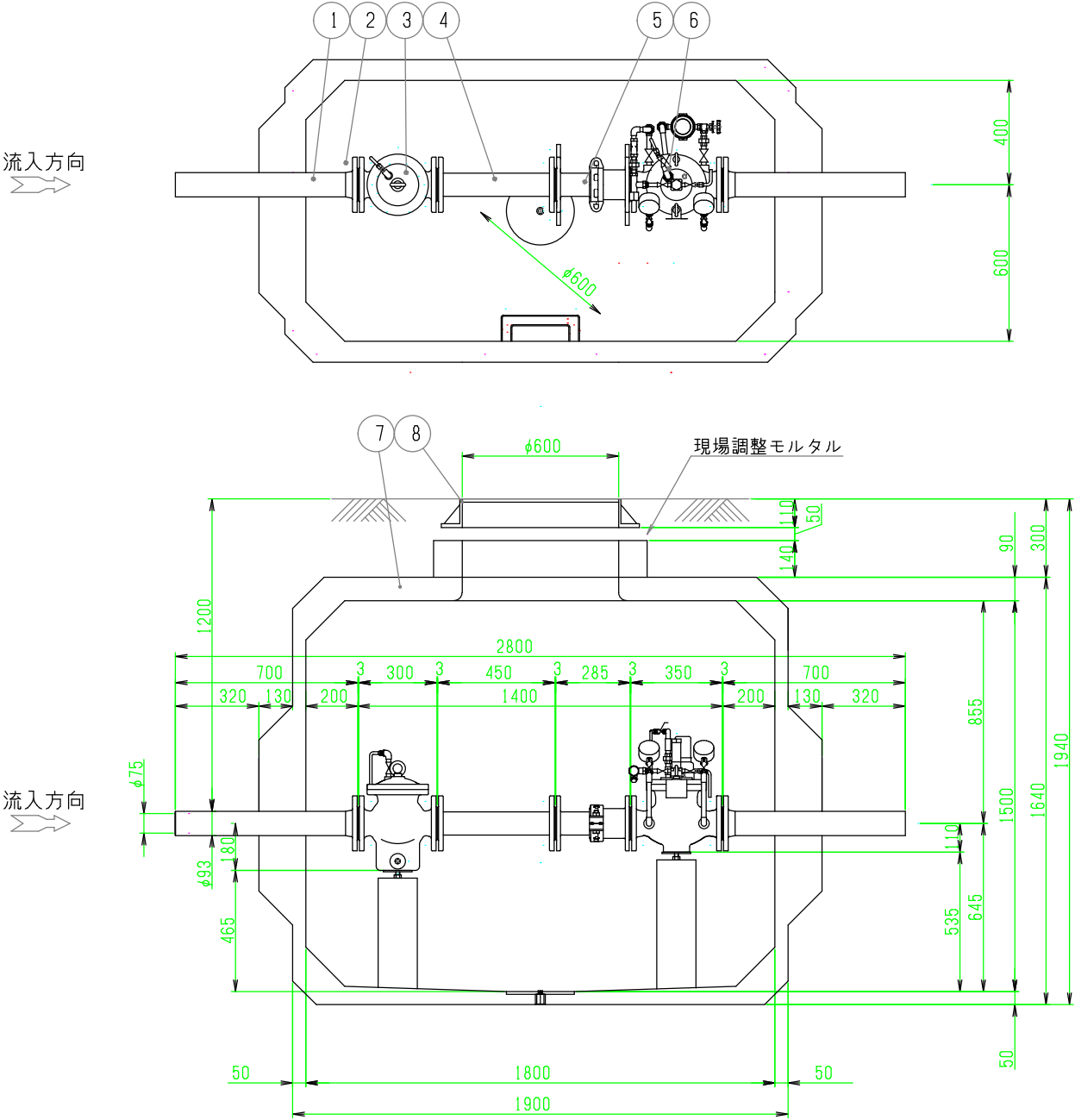


減圧弁設置箇所
W2.4m×L5.0m = 12㎡



令和 8 年度					
給水図・展開図			縮尺 フリー		
老朽管更新黒沢					
配水管布設替工事					
課長 照査	伊藤（靖）		係長	伊藤（勇）	
	木村	設計		酒井	製図
図面番号		2		葉中之 3	
伊那市役所			水道整備課		

減圧弁



- (注) 1. 鉄蓋の据付は、調整リング上のねじ穴3ヶ所に据付用ボルト・ナット（付属品）を取付け、鉄蓋をのせて路面レベルに合わせて固定して下さい。固定後に鉄蓋と調整リングの隙間をモルタルで埋め、周囲の施工を行って下さい。
2. 基礎工は通常、砂利または砕石基礎工を、地盤の悪い場所では、コンクリート基礎工を行って下さい。
3. 配管のレベルは、水平に設置下さい。
4. ハイレジコンピットの製造上の許容寸法を±で示します。ハイレジコンピットの埋設は許容寸法を考慮し行って下さい。
5. ハイレジコンピットの各部の形状、位置など現物とは異なる場合があります。
6. ハイレジコンピットはT-25荷重設計とする。

9	ステップ		1式	
8	鉄蓋	FCD	1	
7	レジンマンホール		1	HS-2特形
6	減圧弁	FCD450-10	1	MRF-100
5	伸縮管	SGP+SS400	1	タイロッド付 ナイロンコート
4	両フランジ短管	SGP+SS400	1	ナイロンコート
3	ストレーナー	FCD450-10	1	SU-C 空気抜弁付
2	フランジ接合品	SUS304	5組	全面カスケット
1	短管2号	FCD	2	

減圧弁資材数量表		当初	変更	単位
減圧弁 MRF-100型 φ75	1			台
ストレーナー SU-C型 φ75	1			台
HS-2特 一体型ハイレジコンピット	1			基
レジン製調整リング φ600×140H	1			組
レジン製架台	1			式
昇降用ステップ	5			段
鉄蓋（開閉ハンドル付）	1			組
FCD製K形短管2号 φ75×700L	2			本
NC製両フランジ短管 80A×450L	1			本
NC製伸縮管EXR-FA型 80A×290L±40	1			本
フランジ接合材 φ75	5			組

減圧弁設置労務内訳表		当初	変更	単位
鋳鉄管据付工φ75	2.14			m
フランジ継手工φ75	5			口
レジンコンクリート製減圧弁室設置工 （16tラフレンクレーン）	8			時間
試運転調整費	1			人工

既設減圧弁撤去労務内訳表		当初	変更	単位
構造物取壊し工（有筋Co） 1.2×2.4×1.65×0.2=0.95	1			m³
埋戻し（発生土） 1.2×2.4×1.65=4.75	4.8			m³
Co（有筋）処分費 0.95m³×2.3=2.185	2.2			t
（既設減圧弁は販売元が引取り）				

令和 8 年度					
減 圧 弁			縮 尺 フ リ ー		
老朽管更新黒沢					
配水管布設替工事					
課長 照査	伊藤（靖）		係長	伊藤（勇）	
	木村	設計		酒井	製図
図面番号		3		葉中之 3	
伊那市役所			水道整備課		